

第3回 松本麻希様

ヒアリング実施日時 2022年1月17日(月)13:00~14:15



松本様がドローンを使用して撮影した写真

Q1. 現在の仕事について

現在は、ドローンの配送をサービス化する仕事に携わっています。松本さんは昨年8月に転職して実証実験という形で山間部をターゲットにドローン配送をやっていて、3年後サービスを提供するために活動しています。前々職のIT会社は多忙で趣味を見つけるためにドローンを飛ばすイベントに参加しました。そこでmavic(マビック)(ドローン機種)を初めて飛ばしたことがきっかけでドローンに興味を持ったそうです。最初は、特にドローンを仕事にしたいとは思ってなくて、ドローンに興味を持ったものの、どこで買えるのか、何を

Q4. 働く原動力

「ドローンが飛ぶのが当たり前の世界を作りたい」という気持ちと、作れたら面白いだろうなという思いが原動力だそうです。初めは人のいないところで定期的に使い、それを続けることでドローン配送のサービス化に繋がれたらと思っているそうです。これからの時代は高齢者が過疎地に増えていき、このことにより、自分で買い物をすることが困難な買い物弱者も同時に増えると考えていらっしゃいます。そのため、ドローン配送をすることで助かる人もでてくるので、社会の役にたてることも原動力だとお話いただきました。

また、「無いものを作って役に立つ」ことが、社会人になってから好きになったそうです。そのため、「今は無いもの」を作ることがドローンの一番の面白味であるとも思っているそうです。このような好奇心も原動力だとお話いただきました。

Q5. ドローン業界に対する将来への期待

松本さんは、建築業界でのドローンの導入に期待を持っています。建築業界は重労働であること等の理由から、現在女性の少ない業界です。ドローンを使用することで女性も入りやすい環境になり、業界の発展につながるのではないかと考えておられます。具体的な活用方法の例としては、ドローンのカメラで撮影を行い、それを3D化することで測量に使う等があるそうです。

更なる市場拡大のために、ドローンを新しく取り入れる際には、その業界を分かっている人が使うことが必要なのではないかと考えていらっしゃいます。例えば、ドローン業界の人がドローンを持って建築業界に入るのではなく、建築業界の人自身がドローンを活用できるようになる、ということです。その業界の中でどのようにドローンに動いてほしいのかをよく理解している人ほど、新しい業界でドローンを有効に活用できるとお話しいただきました。これまではドローンは写真を撮るものというイメージを持たれがちでしたが、ドローンで撮った写真をどう活用するかを考えることが発展の鍵になるとの考えをお持ちでした。